



哲學研究

第五卷 第六册

第十五號

大正九年六月一日發行

大正五年四月六日第三種郵便物認可
大正九年五月二十七日印刷納本（每月一回一口發行）

ピアノのむつかしさに就て……文學士 兼常清 佐

諸種の社會の相互關係……文學士 高田 保馬

元曲に見えたる支那の婚俗……文學士 浦川 源吾

「我」より見たる自覺教と救濟教……佐々木 月樵

プラトノの美學……文學博士 深田 康算

彙報……

京都帝國大學文學部
京都哲學會



京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究會ヲ開ク
 - 一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク
 - 一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名) 京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
 - 一、書記(一名) 委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
- 學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年參圓四拾錢、前後二期ニ分ケテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

文學博士	波多野精一
文學博士	西田幾多郎
文學博士	朝永三十郎
文學博士	千葉胤成
文學博士	狩野直喜
文學博士	米田庄太郎
文學博士	高瀬武次郎
文學博士	田邊元
文學士	務臺理作
文學士	植田壽藏
文學博士	野上俊夫
文學博士	松本文三郎
文學博士	深田康算
文學博士	藤井健治郎
文學博士	小西重直郎
文學士	澤村專太郎
寶嚴方治	

書記

彙報

京都哲學會春期公開講演會

五月九日(日曜日)午後一時より京大法學部第一教室に於て左の講演を行へり

印度佛塔の欄楯に於ける華女彫刻に就て

文學士 澤村專太郎君

エチプトの藝術に就て

文學博士 松本文三郎君

講演後學生集會場に於て 晚餐會を開き會員多數出席歡を盡して九時收會。

心理讀書會

四月廿九日

Westermarck, Origin and development of Moral Ideals.

野上教授

五月六日

Innerungsgeföhle.

大脇義一君

五月十三日

東京、横須賀より歸りて

岩井文學士

五月二十日

主意主義の心理學

大脇義一君

寄贈書籍雜誌

最近哲學の進歩

大日本學術協會

哲學雜誌、丁西倫理講演集、心理研究、東洋哲學、六合雜誌、東亞之光、文化運動、六條學報、學校教育、教育、内外教育評論、教育學術界、教育界、教育研究、教育時論、現代教育、東京教育、近江教育、岐阜教育、三重教育、愛知教育、都市教育、信濃教育、佐賀教育、藤岡教育、長崎縣教育、宮城教育、愛媛教育、京都美術新聞、日華公論。

第五十號所載フイヒテの歴史哲學正誤

頁	行	誤	正
六五	七	興つた	興へた
六八	一八	禍ひなる	福ひなる
七九	一	基礎	基礎
八五	一二	完成	完成
八五	一三	發然	出發點
八六	八	理解される	理解されざる
九二	一	信仰の悟性	信仰と悟性
九四	二	合理的ならずと	合理的ならむと

前 號 目 次

現實主觀……………	……………	文學士 河瀬 憲次
藝術家の惱み……………	……………	文學士 成瀬 無極
視野鬭争過程の一般性質……………	……………	文學士 黒田 源次
フイヒテの歴史哲學(承前)……………	……………	文學士 久保 正夫
睡眠に就て……………	……………	文學士 深 田 武
彙報、新著紹介……………	……………	……………

會 告

一、本會へ入會希望ノ方ハ直接本會宛テニ御申込被下度候
 一、會員ニシテ轉居セラレタル節ハ直チニ其旨御報知被下度候
 一、會役ハ振替口座大阪參〇六六參番、京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・交換雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學 文部部内 京都哲學會
 振替口座大阪參〇六六參番

價 定

冊	數	定	價	郵	稅
一	冊	金	四	拾	錢
六	冊(前金)	金	貳	圓	四
十二	冊(前金)	金	四	圓	八

廣告料

一頁 金拾圓 半頁 金六圓

註 文 規 定

◎會員にあらざる講讀者の御註文及び廣告に關する件は寶文館へ御申込下され度候
 ◎本誌の御註文はすべて代金郵稅共前金にて御送り下さるべく候
 ◎振替貯金にて御送金は(東京二八〇番)寶文館宛に願上候
 ◎前金切れの場合は帶封に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候
 ◎見本御入用の場合は金參拾錢御送り下され度候
 ◎特に請求書及領收書等を要する場合は郵券三錢御送付下され度候

大正九年 五月二十七日印刷納本
 大正九年 六月 一日發 行

第五十一號 第五卷
 第六册



編輯者 京都帝國大學文學部内 京都哲學會

有代表者 寶嚴方治

發行者 大葉久吉

印刷者 青柳十一郎

印刷所 秀英舍第一工場

發行所

東京日本橋區本石町三丁目
 (振替口座東京二八〇番)

寶文館

發賣元

東京市日本橋區本石町三丁目
 大阪市東區淡路町四丁目

寶文館

賣捌所

(東京) 東京堂、東海堂、北隆館、
 上田屋 (大阪) 盛文館 (京都)
 寶文館 (神戸) 寶文館

■ 好評世版 ■

京都帝國大學
文科大學教授

文學博士 朝永三十郎著

增訂 哲學辭典

布裝背革全一冊
定價金參圓八拾錢
送料金拾八錢

從來我國に於ける哲學の辭典は、或は原譯兩語を對照して譯語を示すを目的とせるものか、或は主として教育に關する學語若くは題目を説明するに止まれるものにして、未だ哲學全豹に亘つて廣く學語を説明し、普く斯學研究の參考に資すべきものあらず。著者茲に見る所あり、一般に哲學上の學語を説明したる本書を公にせらるゝや、江湖の好評歡迎湧くが如く、數版を重ねて、第六版を發行するに至れり。純正哲學及所謂哲學的科學に關する述作日に盛なる今日、斯學研究家は勿論、苟も讀書家たる者の必備を要する寶典たり。

東京市日本橋區本石町 (振替東京八〇番) 寶文館 大阪市東區淡路町 (振替大阪四三番)